

ジョウトク建設株式会社 環境経営レポート

(活動期間:2022年8月～2023年7月)

市道瓶岩体育館線道路整備工事 完成写真



発行日：2023年8月1日

ジョウトク建設株式会社

代表取締役 常徳 和也

目 次

項目	内容	ページ
1	組織の概要	1
2	対象範囲、レポートの対象期間及び発行日及び実施体制	3
3	環境経営方針	5
4	環境経営目標	6
5	環境経営計画	7
6	環境経営目標の実績	8
7	環境経営計画の取組結果とその評価	11
8	環境経営目標(次年度)	17
9	環境経営計画(次年度)	18
10	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無	19
11	代表者による全体評価と見直しの結果	20

1.組織の概要

1) 名称及び代表者名

ジョウトク建設株式会社
代表取締役 常德 和也

2) 所在地

本 社	〒783-0094 高知県南国市前浜743番地1 TEL 088-865-8701 FAX 088-865-2011
南国倉庫	高知県南国市前浜42番地6

3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	常德 大祐
担当者	門田 翔吾
連絡先:本社	TEL 088-865-8701
メールアドレス	jsk@abelia.ocn.ne.jp

4) 設立

1970年10月8日 (創業53年)

5) 事業内容

土木建設工事業(主に公共事業受注による一般土木工事)

○建設業の許可	[特定建設業]
	許可番号 高知県知事許可(特-3)第1858号
	許可年月日 2021年11月28日
	有効年月日 2026年11月27日
	建設業の種類 土木工事業 とび・土工工事業
	石工事業 鋼構造物工事業 ほ装工事業
	しゅんせつ工事業 塗装工事業
	水道施設工事業
	[一般建設業]
	許可番号 高知県知事許可(般-3)第1858号
	許可年月日 2021年11月28日
	有効年月日 2026年11月27日
	建設業の種類 管工事業

6) 事業の規模

活動規模	単位	2020年8月 ～ 2021年7月	2021年8月 ～ 2022年7月	2022年8月 ～ 2023年7月
工事等の件数	件	12	5	4
売上高	百万円	882	1,144	283
従業員	人	23	21	21
事務所敷地面積	m ²	120	120	120
事務所床面積	m ²	75	75	75
倉庫床面積	m ²	500	500	500

7) 事業年度

8月～7月

8) 活動範囲

全従業員による全組織を活動範囲とします。
SDGsについて、土木建設会社として環境保全活動・
環境経営を行うことで貢献します。

2.対象範囲、レポートの対象期間及び発行日及び実施体制

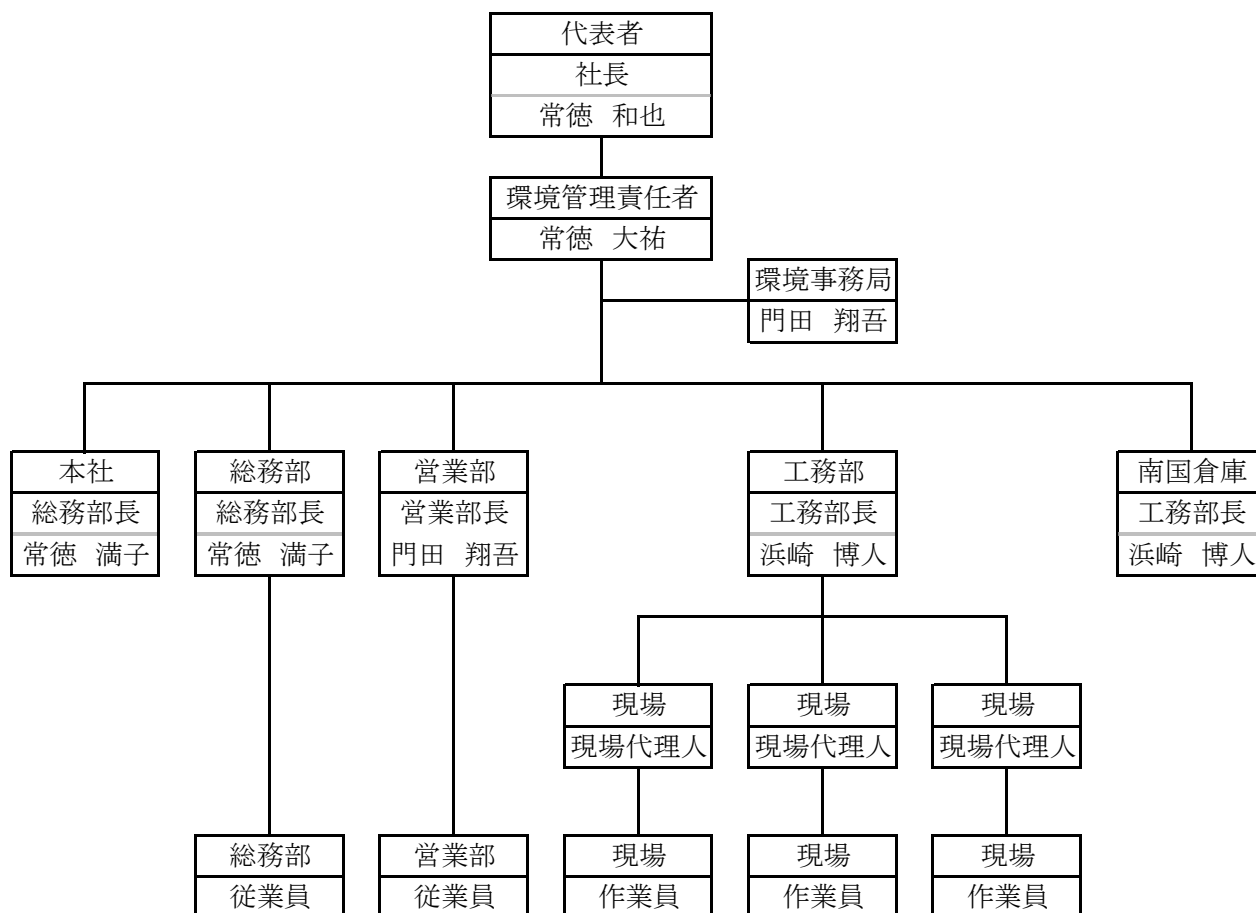
- 1) 登録組織名 ジョウトク建設株式会社

本 社 〒783-0094
高知県南国市前浜743番地1
TEL 088-865-8701 FAX 088-865-2011

南国倉庫 高知県南国市前浜42番地6

- 2) 活動 全従業員による全組織を活動範囲とします。
SDGsについて、土木建設会社として環境保全活動・
環境経営を行うことで貢献します。
- 3) レポートの対象期間 2022年8月～2023年7月
- 4) 発行日 2023年8月1日
- 5) 次回発行日 2024年8月(予定)
- 6) 環境経営レポート発行責任者 環境管理責任者 常德 大祐

7) 環境管理実施体制図及び役割・責任・権限表



役割・責任・権限表

代表者	責任:環境経営に関する統括責任 役割:環境経営目標・環境経営計画・環境管理組織体制を承認 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 環境経営システムの評価と見直しを実施 資材(設備、費用、時間、人材)の準備 権限:環境管理責任者に対する任命権
環境管理責任者	責任:環境経営に関するシステム運用責任 役割:環境経営目標・環境経営計画・環境管理組織体制を確認 環境経営システムの立案、構築、実施、管理 環境経営の取組結果を代表者へ報告 権限:各部門の環境経営に関する是正措置命令権
環境事務局	責任:環境経営に関する文書管理責任 役割:環境経営目標・環境経営計画・環境管理組織体制原案を作成 文書の作成・全従業員への周知 環境経営の実績集計、評価の実施 従業員に対する教育訓練の実施
各部門 (各部長) (現場代理人)	責任:自部門における環境経営の実施責任 役割:自部門における環境経営システムの実施 自部門に関連する環境経営計画の実績報告 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	責任:環境経営に取り組む企業の構成員としての行動責任 役割:環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、 社内決定事項の遵守ならびに自主的・積極的な環境経営への参加

3.環境経営方針

ジョウトク建設株式会社

【環境経営理念】

ジョウトク建設株式会社は、自然を切り開き施工を行う土木建設工事業であるからこそ、より自然の大切さを認識し、地域・地球の環境保全活動に取り組み、継続的改善による環境経営に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献する企業であり続けます。

【環境経営方針】

- 1) 本方針は、単年度の環境経営目標を確実に達成すべく、環境管理実施体制図及び役割・責任・権限表に定めた形態で実施します。
- 2) 各現場代理人は、環境負荷の少ない施工を行うことが重大な職責であると自覚し、それを推進します。
- 3) 電気、燃料の使用量を減らしCO₂の排出量の削減、水等の資源の使用量を低減します。特に現場における燃料の使用量がCO₂排出量に与える影響が大きいことをよく認識し、その削減に取り組みます。
- 4) 廃棄物の排出量の削減、再資源化を推進します。
- 5) 事務用品や現場資材のグリーン購入を推進します。
- 6) 社会貢献・環境活動に継続的改善を行いながら取り組みます。
- 7) 環境関連法規制を遵守します。
- 8) この環境経営方針は、全従業員に周知、徹底します。
- 9) 環境経営レポートを作成し、外部に公表します。

制定日：平成22年12月20日

第1回改定日：平成25年 8月20日

第2回改定日：令和元年 8月 1日

第3回改定日：令和 3年 8月 2日

第4回改定日：令和 4年 8月 1日

代表取締役

常德和也

4.環境経営目標 【2022年度】

当社では、二酸化炭素排出量と廃棄物排出量について、2011年度から事務所と現場を個別に集計し、下記表のとおり目標を設定し、積極的に環境経営に取り組んでいる。
現場においては、全職員の意識向上をより一層図り、徹底して取り組んで行く。

○環境経営目標

取 組 項 目			基準値	単年度目標値	中長期目標		
			2011年8月～2012年7月	2022年8月～2023年7月	2023年8月～2024年7月	2024年8月～2025年7月	2025年8月～2026年7月
CO ₂ 排出量の削減	電力 使用量 (kWh)	事務所	15,769	14,200	14,000	13,800	13,700
		現場	10,420	9,400	9,300	9,200	9,000
		合計	26,189	23,600	23,300	23,000	22,700
	燃料 使用量 (ℓ)	事務所軽油	557	500	500	400	400
		事務所ガソリン	23,903	21,500	21,300	21,100	20,900
		現場軽油	113,709	100,000	99,100	98,200	97,300
		現場ガソリン	7,742	10,000	9,900	9,800	9,700
		合計	145,911	132,000	130,800	129,500	128,300
	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	事務所電力	10,549	9,500	9,400	9,300	9,200
		事務所軽油	1,462	1,300	1,300	1,000	1,000
		事務所ガソリン	62,731	50,000	49,500	49,000	48,500
		現場電力	6,971	6,300	6,200	6,100	6,000
		現場軽油	297,533	258,000	255,700	253,400	251,100
		現場ガソリン	21,196	23,200	23,000	22,800	22,600
		合計	400,442	348,300	345,100	341,600	338,400
	売上高百万円当りのCO ₂ 排出量		259	250	250	240	240
	(kg-CO ₂ /百万円)						
水資源投入量の削減	用水 使用量 (m ³)	事務所	377	340	330	320	310
		現場	221	200	190	180	170
		合計	598	540	520	500	480
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量(t)		6,500	5,900	5,800	5,700	5,600
	産業廃棄物再資源化率(%)		100	100	100	100	100
	一般廃棄物排出量(kg)		640	580	580	560	550
社会貢献 環境美化活動	件		—	4	4	5	5
環境負荷の 少ない工事 の推進	％ (実施〇件/全体〇件)		—	40 (6/15)	40 (6/15)	47 (7/15)	47 (7/15)

※購入電力のCO₂排出係数は、2016年12月27日公表の四国電力の調整後排出係数 0.669kg-CO₂/kWh を使用した。

*CO₂排出量の削減

- ・購入電力については、節電を心がけ2011年度に比して2022年度には10%程度削減を目標とする。
- ・化石燃料については、全体目標として2011年度に比して2022年度には10%程度削減を目標とする。

*水資源投入量の削減

- ・水資源については、節水を心がけ、2011年度に比して2022年度には10%程度削減を目標とする。

*廃棄物排出量の削減

- ・産業廃棄物の処理方法は、運搬業者及び処理業者と契約を行い、県土木に前もって提出する。
- ・産業廃棄物については、建設リサイクル法の特定品目に関しては今後も100%を継続する。
- ・一般廃棄物については、事務所・現場共に分別を徹底しリサイクルに努めゴミの減量化を目指す。
ペットボトル・空缶については洗浄後にリサイクルに出す。
また、紙類の分別リサイクルを徹底する。

*グリーン購入の推進

- ・事務用品については、グリーン商品を優先的に選定して使用する。
また、現場資材においては可能な限りグリーン購入に努め、特に県産品木製型枠の利用には積極的に取り組む。

*社会貢献環境美化活動

- ・ロードボランティア・現場周辺の清掃活動など地域のための環境美化活動を推進していく。

*環境負荷の少ない工事の推進

- ・環境負荷の少ない工法を検討し、発注者へ提案していく。
ここでいう「環境負荷の少ない工事」とは、以下の内容に取り組んでいる工事とする。
- ①環境負荷の少ない材料(リサイクル製品、県産品等)の使用。
- ②低騒音・排出ガス対策型重機の使用。
- ③型枠、工事看板への県産材の使用。
- ④建設機械、工事用車両の省エネ運転の実施。

5.環境経営計画

【対象期間:2022年8月1日～2023年7月31日】

取組項目			実施責任者
CO ₂ 排出量の削減	電力使用	・電子機器(PC,スマートフォン等)は省電力モードに設定し、消費電力を削減する。	常德 満子 門田 翔吾 浜崎 博人
		・網戸や寒冷紗を使用することで、冷房の使用を減らす。	
		・退室及び退社時には、照明やエアコンの電源を確認する。	
		・照明は、必要な箇所のみの点灯を心がける。	
		・衣服の工夫により、冷暖房の使用を減らす。	
		・太陽電池及びセンサー点灯機能を利用した設備を使用する。	
		・取替時期を迎えた照明より、順次LED化を実施する。	
	化石燃料	・積極的に乗り合わせ移動を行う。	常德 満子 門田 翔吾 浜崎 博人
		・乗用車には余分な荷物を積まない。	
		・電子機器を利用して現場状況を確認することで、不要不急の現場への移動を減らす。	
		・直営作業員の通勤距離を短くするように、現場の配置調整を行う。	現場代理人
		・手戻り作業が発生しないように、作業手順を確認する。	
・最大積載量を守り過積載をしない。			
水資源投入量の削減	・水道は使用後に水が確実に止まっているか確認する。	常德 満子	
	・養生には保水性の高い養生マットを使用し水資源投入量を減らす。	現場代理人	
	・粉塵の影響の少ない場所に現場内駐車位置を指定し、洗車頻度を減らす。		
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	・資料や書類の簡素化及び電子化をする。	常德 満子 門田 翔吾 浜崎 博人
		・使用済み用紙を再利用する。(裏面使用)	
		・不要な文房具等を購入しないようにする。	
		・不用品を捨てる前に、利用する人がいないか確認する。	
		・詰替えや濃縮品の利用により、プラスチックごみを削減する。	
	産業廃棄物	・ゴミの量が少ない商品を利用する。	現場代理人
		・事務用品購入前に、その必要性や必要量について検討する。	現場代理人
		・本社改築等により発生する場合は、細かく分別する。	
		・構造物撤去や伐開の範囲は必要最小限にし、排出量を抑える。	
		・撤去時に産業廃棄物になることが見込まれる工法を極力選定しない。	
		・建設汚泥は曝気し、発注者等に確認した上で積極的に再利用する。	
		・出来形や注文量を厳しく管理し、コンクリートや資材の廃棄量を抑える。	
グリーン購入の推進	・再生紙を使用する。	常德 満子 現場代理人	
	・エコマーク商品や再生材料から作られた製品を購入、使用する。	現場代理人	
	・リサイクル建設資材の活用に努める。		
社会貢献 環境美化活動	・事務所周辺のロードボランティア活動を積極的に実施する。	門田 翔吾	
	・現場周辺の清掃等環境美化活動を積極的に実施する。	現場代理人	
環境負荷の少ない 工事の推進	・環境負荷の少ない材料(リサイクル製品、県産品等)の使用。	現場代理人	
	・低騒音、排出ガス対策型重機の使用。		
	・型枠、工事看板への県産材の使用。		
	・建設機械、工事用車両の省エネ運転の実施。		

6.環境経営目標の実績

【2022年8月1日～2023年7月31日】

項目	単位		2011年度 (2011年8月～2012年7月)	2022年度 (2022年8月～2023年7月)		目標値比 (%)	判定
			実績(基準年度)	目標	実績		
CO ₂ 排出量の削減	電力 使用量 (kWh)	事務所	15,769	14,200	15,438	108.7	×
		現場	10,420	9,400	80,356	854.9	×
		合計	26,189	23,600	95,794	405.9	×
	燃料 使用量 (ℓ)	事務所	24,460	22,000	16,371	74.4	○
		現場	121,451	110,000	44,003	40.0	○
		合計	145,911	132,000	60,374	45.7	○
	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	事務所電力	10,549	9,500	10,328	108.7	×
		現場電力	6,971	6,300	53,758	853.3	×
		事務所燃料	64,193	51,300	40,589	79.1	○
		現場燃料	318,729	281,200	113,264	40.3	○
		合計	400,442	348,300	217,939	62.6	○
水資源 投入量の削減	売上高百万円当りの CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /百万円)		259	250	770	308.0	×
廃棄物 排出量の削減	産業廃棄物排出量(t) リサイクル率(%) 一般廃棄物排出量(kg)	事務所	377	340	240	70.6	○
		現場	221	200	0	0.0	○
		合計	598	540	240	44.4	○
社会貢献 環境美化活動	件		—	4	4	100.0	○
環境負荷の 少ない工事 の推進	%		—	40	60	150.0	○
		(実施○件/全体○件)		(6/15)	(3/5)		

※購入電力のCO₂排出係数は、2016年12月27日公表の四国電力の調整後排出係数 0.669kg-CO₂/kWh を使用した。

●環境負荷の少ない工事の推進

- ・環境負荷の少ない工法を検討し、発注者へ提案していく。
- ここでいう「環境負荷の少ない工事」とは、以下の内容に取り組んでいる工事とする。
 - ①環境負荷の少ない材料(リサイクル製品、県産品等)の使用。
 - ②低騒音・排出ガス対策型重機の使用。
 - ③型枠、工事看板への県産材の使用。
 - ④建設機械、工事用車両の省エネ運転の実施。

●目標達成及び未達成の理由

電力使用量について、事務所・現場ともに目標未達成となった。理由に挙げられるのは、特に夏季におけるエアコンの使用時間が長かったこと、現場事務所の大型化に伴いエアコン・照明の必要電力が増大したこと、また最たる理由としては現場電力を水替ポンプの動力に用いたことである。

事務所としては、節電意識の向上を図りながら電力を消費しない生活様式の確立をねらうことが重要であると考えられる。現場においては、引き続き現場事務所・作業員休憩所等の施設の省電力化・小型化に取り組んでいく。

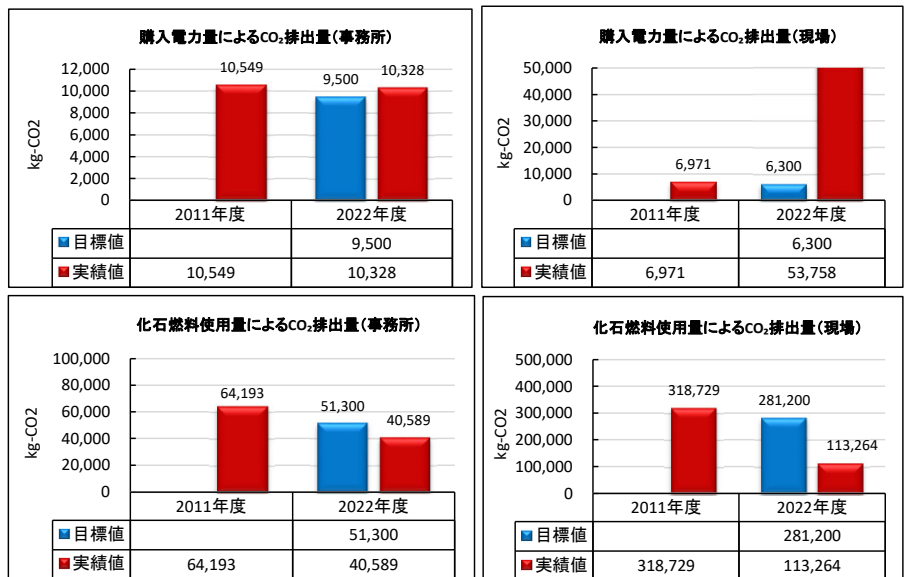
一方で、燃料使用量及び合計CO₂排出量については、目標に対して余裕のある達成が出来ているため、引き続き抑制に努めていく。

前年度より売上高が大きく減少したため、合計CO₂排出量は微増で収まったにもかかわらず、百万円あたりのCO₂排出量は前年度より大きく増加した。

来期完成見込みである大型工事は多いため、次年度にはこの点については大きく改善されると見込まれる。

また近年導入したICT施工による手待ち・手戻り減少によるCO₂排出量抑制効果は大きいと考えられるため、今後も重機作業の効率化を図っていく。

産業廃棄物再資源化率の目標未達成の原因については、当社が排出する主要な産業廃棄物であるがれき類については100%再資源化が行われていたが、末梢的な産業廃棄物について中間処理・焼却が必要なものがあつたためである。



○環境経営目標実績(過去3年間)

項目	単位		2011年度 (基準年度)	2020年8月～2021年7月					2021年8月～2022年7月					2022年8月～2023年7月				
			実績	目標	実績	目標比(%)	判定	目標	実績	目標比(%)	判定	目標	実績	目標比(%)	判定	目標	実績	目標比(%)
CO ₂ 排出量の削減	電力使用量 (kWh)	事務所	15,769	14,507	11,651	80.3	○	14,350	11,471	79.9	○	14,200	15,438	108.7	×			
		現場	10,420	9,586	14,322	149.4	×	9,482	15,121	159.5	×	9,400	80,356	854.9	×			
		合計	26,189	24,093	25,973	107.8	×	23,832	26,592	111.6	×	23,600	95,794	405.9	×			
	燃料使用量 (ℓ)	事務所	24,460	22,503	18,436	81.9	○	22,259	18,631	83.7	○	22,000	16,371	74.4	○			
		現場	121,451	111,735	70,989	63.5	○	110,520	47,174	42.7	○	110,000	44,003	40.0	○			
		合計	145,911	134,238	89,425	66.6	○	132,779	65,805	49.6	○	132,000	60,374	45.7	○			
	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	事務所電力	10,549	9,705	7,794	80.3	○	9,600	7,674	79.9	○	9,500	10,328	108.7	×			
		現場電力	6,971	6,413	9,581	149.4	×	6,344	10,116	159.5	×	6,300	53,758	853.3	×			
		事務所燃料	64,193	59,058	44,738	75.8	○	58,416	45,186	77.4	○	51,300	40,589	79.1	○			
		現場燃料	318,729	293,231	182,596	62.3	○	290,043	120,804	41.7	○	281,200	113,264	40.3	○			
		合計	400,442	368,407	244,709	66.4	○	364,403	183,780	50.4	○	348,300	217,939	62.6	○			
	売上高百万円当りのCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /百万円)		259	250	277	110.8	×	250	161	64.4	○	250	770	308.0	×			
水資源投入量の削減	用水量 (m ³)	事務所	377	347	240	69.2	○	343	240	70.0	○	340	240	70.6	○			
		現場	221	203	0	0.0	○	201	0	0.0	○	200	0	0.0	○			
		合計	598	550	240	43.6	○	544	240	44.1	○	540	240	44.4	○			
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量(t)		6,500	5,980	2,021	33.8	○	5,915	345	5.8	○	5,900	696	11.8	○			
	産業廃棄物再資源化率(%)		100	100	99.9	-0.1	×	100	99.2	-0.8	×	100	99.3	-0.7	×			
	一般廃棄物排出量(kg)		640	589	366	62.1	○	582	396	68.0	○	580	356	61.4	○			
社会貢献 環境美化活動	件		—	3	7	233.3	○	3	6	200.0	○	4	4	100.0	○			
環境負荷の少ない工事の推進	%(実施〇件/全体〇件)		—	33 (5/15)	42 (5/12)	125.0	○	33 (5/15)	60 (3/5)	182.0	○	40 (6/15)	60 (3/5)	150.0	○			

※購入電力のCO₂排出係数は、2016年12月27日公表の四国電力の調整後排出係数 0.669kg-CO₂/kWh を使用した。

*環境負荷の少ない工事の推進

- ・環境負荷の少ない工法を検討し、発注者へ提案していく。
- ここでいう「環境負荷の少ない工事」とは、以下の内容に取り組んでいる工事とする。
 - ①環境負荷の少ない材料(リサイクル製品、県産品等)の使用。
 - ②低騒音・排出ガス対策型重機の使用。
 - ③型枠、工事看板への県産材の使用。
 - ④建設機械、工事用車両の省エネ運転の実施。

●目標達成及び未達成の理由

電力使用量について、事務所・現場ともに目標未達成となった。理由に挙げられるのは、特に夏季におけるエアコンの使用時間が長かったこと、現場事務所の大型化に伴いエアコン・照明の必要電力が増大したこと、また最たる理由としては現場電力を水替ポンプの動力に用いたことである。

事務所としては、節電意識の向上を図りながら電力を消費しない生活様式の確立をねらうことが重要であると考えられる。現場においては、引き続き現場事務所・作業員休憩所等の施設の省電力化・小型化に取り組んでいく。

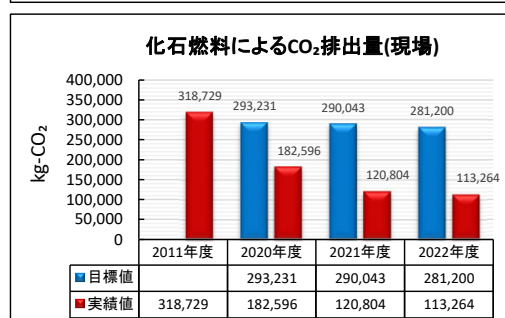
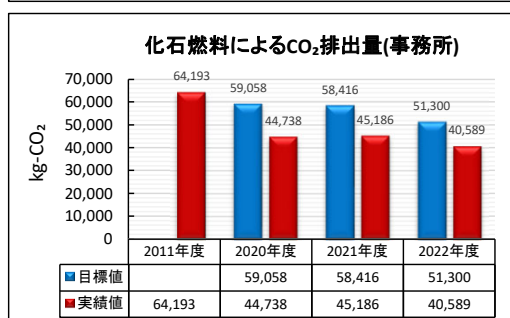
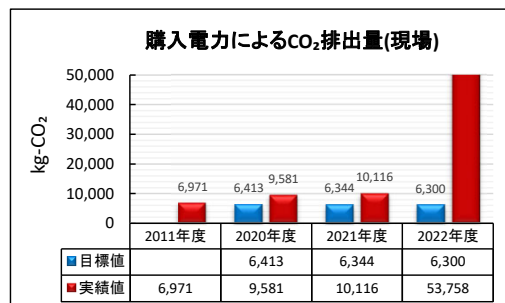
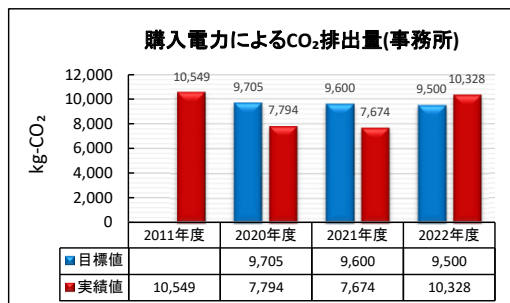
一方で、燃料使用量及び合計CO₂排出量については、目標に対して余裕のある達成が出来ているため、引き続き抑制に努めていく。

前年度より売上高が大きく減少したため、合計CO₂排出量は微増で収まったにもかかわらず、百万円あたりのCO₂排出量は前年度より大きく増加した。

来期完成見込みである大型工事が多いため、次年度にはこの点については大きく改善されると見込まれる。

また近年導入したICT施工による手待ち・手戻り減少によるCO₂排出量抑制効果は大きいと考えられるため、今後も重機作業の効率化を図っていく。

産業廃棄物再資源化率の目標未達成の原因については、当社が排出する主要な産業廃棄物であるがれき類については100%再資源化が行われていたが、末梢的な産業廃棄物について中間処理・焼却が必要なものがあったためである。



○「売上高」および「CO₂排出量」の実績推移

	2020年度	2021年度	2022年度
売上高 (百万円)	882	1,144	283
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	244,709	183,780	217,939
百万円あたりの CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	277	161	770

○2022年度「購入量」および「CO₂排出量」

	事務所	現場	合計
購入電力 (kWh)	15,438	80,356	95,794
化石燃料 (ℓ)	16,371	44,003	60,374
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	50,917	167,022	217,939

2022年度 実績データまとめ		
売上高	283	百万円
CO ₂ 排出量	217,939	kg-CO ₂
エネルギーコスト	12.880	百万円 (概算)
百万円あたりの CO ₂ 排出量	770	kg-CO ₂ ／百万円
売上に占める エネルギーコスト	4.55	%

※エネルギーコストの概算

電気	520,000+2,850,000 =3,370,000円
化石燃料	2,430,000+190,000+330,000+ 6,240,000+30,000+290,000 =9,510,000円
合計	3,370,000+9,510,000 =12,880,000円

7.環境経営計画の取組結果とその評価

◎ 環境経営計画の取組結果とその評価

2022年8月から2023年7月までの環境経営計画の実施状況・目標達成状況により評価を行った。

【CO₂排出量】

目標値に対して、CO₂排出量全体としては37%の大幅な削減となった。

昨年と比較すると増加したものの、引き続きICT建設機械の使用による効率的な現場運営により、現場における燃料使用量が目標値と比較して低く抑えられていることがその理由である。

今後も、目標達成に向けて活動を継続していく。

【電力使用によるCO₂排出量】

目標値に対して、事務所では8%の超過、現場では753%の超過となった。

事務所については、冷暖房使用時の間仕切りカーテンや必要箇所のみ照明点灯などを心掛けていたものの、特に夏季におけるエアコンの使用時間が長かったことが超過の要因と考えられる。

節電意識の向上を図りながら電力を消費しない生活様式の確立をねらうことが、事務所としての電力使用量の改善に重要であると考え、実施していく。

現場における大幅な超過の理由は現場電力を水替ポンプの動力に用いたためであり、軽油による大型発電機での動力供給に比べCO₂排出量は格段に抑えられるため、環境に配慮した施工方法の選定としては適切であったと考えている。一方で、現場事務所等施設の省電力化は継続的な課題であるため、今後も目標達成に向けて活動を継続していく。

【化石燃料によるCO₂排出量】

目標値に対して、事務所では21%の削減、現場では60%の削減となった。

事務所については、情報共有システムによる発注者への書類提出や通勤距離を短くするための現場の配置調整が、削減の要因として挙げられる。

一方現場は、ICT施工への取組みや発動発電機を使用しない電力供給方法への取組みが、削減の要因として挙げられる。

今後も、目標達成に向けて活動を継続していく。

【水資源投入量】

目標値に対して、事務所では29%の削減、現場では100%の削減となった。

現場については、工事特性により上水を必要とする現場がなかったため大きな削減となった。

今後も、目標達成に向けて活動を継続していく。

【廃棄物排出量】

目標値に対して、産業廃棄物は88%の削減、一般廃棄物は39%の削減となった。

なお、産廃処理契約の締結、許可証の確認、マニフェストの発行などは適正に行われている。

産業廃棄物はコンクリート・アスファルト殻が主で、それらについては中間処理施設により100%再資源化が行われているが、末梢的な産業廃棄物である紙くずについて中間処理・焼却が行われていたため、産業廃棄物全体の再資源化率100%という目標に対しては99.3%とわずかに未達となった。

一般廃棄物については、不要なものを購入しないことや詰替え製品の積極利用等を行うことにより、目標を達成することができた。

今後も、目標達成に向けて活動を継続していく。

【グリーン購入】

事務用品のグリーン購入の取組は、引続きエコマーク商品及びリサイクル商品の購入を進めていく。

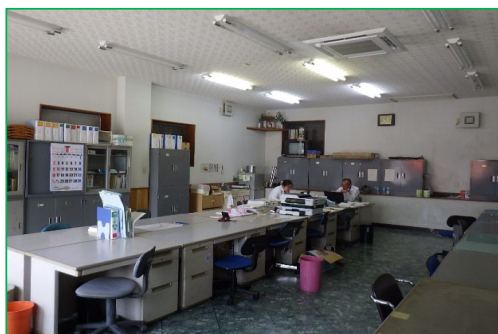
◎CO₂・廃棄物排出量及び水資源投入量の削減ならびにグリーン購入の推進実施状況



写真名: センサー式太陽光発電型照明灯設置状況

撮影場所: 南国本社 工務部

説明文: 工務部入口にセンサー式太陽光発電型照明灯
を設置し、夜間に入口の施錠を行うときの光源
として利用しています。



写真名: 必要箇所のみの照明点灯状況

撮影場所: 南国本社 工務部

説明文: 工務部は大部屋になっているため、照明は
在席者周辺の必要箇所に限る点灯とする
ことで節電を行っています。



写真名: センサー式太陽光発電型照明灯設置状況

撮影場所: 道改第1号 市道瓶岩体育館線道路整備工事
(橋梁下部工・道路工)

説明文: 現場事務所入口にセンサー式太陽光発電型
照明灯を設置し、夜間に入口の施錠を行うとき
の光源として利用しています。

◎CO₂・廃棄物排出量及び水資源投入量の削減ならびにグリーン購入の推進実施状況



写真名: 節水意識啓発ポスター貼付・エコキャップ使用状況

撮影場所: 南国本社

説明文: 節水意識啓発ポスターの設置により、水使用量の低減を行っています。

また節水エコキャップも合わせて使用することでより一層の水使用量の低減を行っています。

本社以外にも、水使用量の多い工務部の流し台にも設置を行っています。



写真名: 工事書類の電子化状況

撮影場所: 南国本社 工務部

説明文: 工事書類を電子データとして整理することにより、工事写真の印刷等を行わず紙資源の節約を行っています。



写真名: グリーン購入実施状況

撮影場所: 南国本社 営業部 バックヤード

説明文: 再生紙、書類ファイル、テブラテープ、トイレットペーパー他環境ラベル表示製品を優先的に購入しています。

今後も積極的に環境に配慮した製品の使用に努めていきます。

【社会貢献環境美化活動】

ロードボランティア活動、現場周辺の清掃活動等により目標値を達成できた。
引続き、地域貢献活動を積極的に行う。

◎社会貢献環境美化活動実施状況



写真名: ロードボランティア実施状況

撮影場所: 南国本社 北側歩道

説明文: 歩道の塵や空き缶を当社社員が清掃回収
しています。

ごみの分別を効率よく行うために、ごみの種類に
よって回収担当を決めて作業を行っています。



写真名: 道路清掃状況

撮影場所: 道改第1号

市道瓶岩体育館線道路整備工事
(橋梁下部工・道路工)

現場周辺

説明文: 施工現場周辺の道路路側の雑草について、草刈り
を実施して景観を良くしました。



写真名: 道路清掃状況

撮影場所: 令和4-5年度

南国安芸道路西野地区改良第5工事

現場周辺

説明文: 道路一斉清掃に参加し、現場周辺美化活動
を行いました。

【環境負荷の少ない工事の推進】

工事受注時に、工法の環境への配慮の程度を社内で評価した後、発注者との打合せにより環境負荷の少ない工法を選定していく。

◎環境負荷の少ない工事の現場別一覧

工事名	工種	環境配慮事項
道改第1号 市道瓶岩体育館線道路整備工事 (橋梁下部工・道路工)	土工	ICT施工を行い、作業の効率化を行った。
	水路工	二次製品を使用し、工程短縮を行った。
	共通仮設工	照明は太陽光式のものを利用した。
道老対(橋梁)第1-22-52号 道路メンテナンス事業補助 市道明見住吉野線外2路線橋梁修繕工事	橋梁補修工	養生はシートで密閉保温することで、熱供給を不要にした。
	撤去工	研り深さを最小限に抑え、コンクリート殻の発生量を抑えた。
	拡幅部復旧工	アジテータ車シュートによりバックホウを使用せず打設した。
公適管第03-104-1号 県道日ノ御子土佐山田線 公共施設等適正管理推進工事	舗装工	路面切削を行い、舗装撤去時の粉塵飛散を抑制した。
	共通仮設工	点滅灯は太陽光式のものを利用した。
	—	—

◎環境負荷の少ない工事の現場別一覧



写真名: ICT建設機械施工状況

撮影場所: 道改第1号

市道瓶岩体育館線道路整備工事

(橋梁下部工・道路工)

現場周辺

説明文: ICT建設機械(ブルドーザ)を使用することにより、
効率的な切土を行い、CO₂排出量を抑制しました。



写真名: アクアマット養生状況

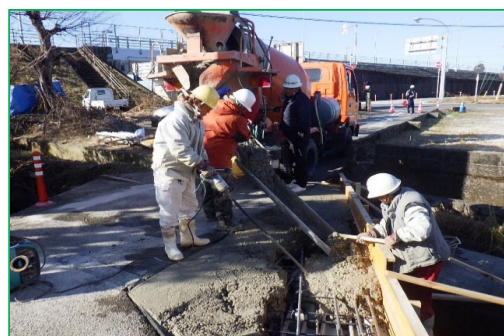
撮影場所: 道改第1号

市道瓶岩体育館線道路整備工事

(橋梁下部工・道路工)

現場周辺

説明文: コンクリート養生について、保水性の高いシート
で全面を覆うことにより水分の逸失を防ぎ、散水
養生の回数を減らすことで節水を行いました。



写真名: アジテータ車シュートを用いた打設

撮影場所: 道老対(橋梁)第1-22-52号

道路メンテナンス事業補助

市道明見住吉野線外2路線橋梁修繕工事

現場周辺

説明文: アジテータ車のシュートを延長して型枠に直接
コンクリートを投入することで、バックホウを使用
せずに打設を行い、CO₂排出量を抑制しました。



写真名: 路面切削状況

撮影場所: 公適管第03-104-1号

県道日ノ御子土佐山田線

公共施設等適正管理推進工事

現場

説明文: 既設舗装撤去に切削機械を使用することで速やか
に撤去作業を終えることができ、通常のバックホウに
よる剥取作業に比べて粉塵を飛散させない施工を
行った。

8.環境経営目標(次年度)

当社では、二酸化炭素排出量と廃棄物排出量について、2011年度から事務所と現場を個別に集計し、下記表のとおり目標を設定し、積極的に環境活動に取り組んでいる。
現場においては、全職員の意識向上をより一層図り、徹底して取り組んで行く。

○環境経営目標

取 組 項 目			基準値	単年度目標値	中長期目標		
			2020年8月～2021年7月	2023年8月～2024年7月	2024年8月～2025年7月	2025年8月～2026年7月	2026年8月～2027年7月
CO ₂ 排出量の削減	電力 使用量 (kWh)	事務所	11,651	11,500	11,400	11,300	11,200
		現場	14,322	14,000	13,800	13,600	13,400
		合計	25,973	25,500	25,200	24,900	24,600
	燃料 使用量 (ℓ)	事務所軽油	0	3,000	2,900	2,900	2,800
		事務所ガソリン	18,436	18,000	17,800	17,600	17,400
		現場軽油	68,675	64,000	63,500	63,000	62,500
		現場ガソリン	2,049	2,000	1,900	1,900	1,800
		合計	89,160	87,000	86,100	85,400	84,500
	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	事務所電力	6,210	6,100	6,100	6,000	6,000
		事務所軽油	0	7,700	7,500	7,500	7,200
		事務所ガソリン	42,772	41,800	41,300	40,800	40,400
		事務所その他燃料	1,966	1,900	1,900	1,900	1,800
		現場電力	7,633	7,500	7,400	7,200	7,100
		現場軽油	177,181	165,100	163,800	162,500	161,300
		現場ガソリン	4,753	4,600	4,400	4,400	4,200
		現場その他燃料	662	600	600	600	500
		合計	241,177	235,300	233,000	230,900	228,500
	売上高百万円当りのCO ₂ 排出量		277	250	240	240	230
	(kg-CO ₂ /百万円)						
水資源投入量の削減	用水 使用量 (m ³)	事務所	240	230	230	230	220
		現場	0	0	0	0	0
		合計	240	230	230	230	220
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量(t)		2,021	1,800	1,800	1,800	1,600
	産業廃棄物再資源化率(%)		99.9	100	100	100	100
	一般廃棄物排出量(kg)		366	350	350	350	320
社会貢献 環境美化活動	件		7	7	7	7	8
環境負荷の少ない工事の推進	%(実施○件/全体○件)		42 (5/12)	42 (5/12)	50 (6/12)	50 (6/12)	58 (7/12)

※購入電力のCO₂排出係数は、2022年7月13日公表の四国電力の調整後排出係数 0.533kg-CO₂/kWh を使用した。

*CO₂排出量の削減

- ・購入電力については、節電を心がけ2020年度に比して2023年度には2%程度削減を目標とする。
- ・化石燃料については、全体目標として2020年度に比して2023年度には2%程度削減を目標とする。

*水資源投入量の削減

- ・水資源については、節水を心がけ、2020年度に比して2023年度には4%程度削減を目標とする。

*廃棄物排出量の削減

- ・産業廃棄物の処理方法は、運搬業者及び処理業者と契約を行い、県土木に前もって提出する。
- ・産業廃棄物については、建設リサイクル法の特定品目に関しては今後も100%を継続する。
- ・一般廃棄物については、事務所・現場共に分別を徹底しリサイクルに努めゴミの減量化を目指す。
ペットボトル・空缶については洗浄後にリサイクルに出す。
また、紙類の分別リサイクルを徹底する。

*グリーン購入の推進

- ・事務用品については、グリーン商品を優先的に選定して使用する。
- また、現場資材においては可能な限りグリーン購入に努め、特に県産品木製型枠の利用には積極的に取り組む。

*社会貢献環境美化活動

- ・ロードボランティア・現場周辺の清掃活動など地域のための環境美化活動を推進していく。

*環境負荷の少ない工事の推進

- ・環境負荷の少ない工法を検討し、発注者へ提案していく。
- ここでいう「環境負荷の少ない工事」とは、以下の内容に取り組んでいる工事とする。
 - ①環境負荷の少ない材料(リサイクル製品、県産品等)の使用。
 - ②低騒音・排出ガス対策型重機の使用。
 - ③型枠、工事看板への県産材の使用。
 - ④建設機械、工事用車両の省エネ運転の実施。

9.環境経営計画(次年度)

【対象期間:2023年8月1日～2024年7月31日】

取組項目			実施責任者
CO ₂ 排出量の削減	電力使用	・電子機器(PC,スマートフォン等)は省電力モードに設定し、消費電力を削減する。	常德 満子 門田 翔吾 浜崎 博人
		・日射を室内へ取入れ、太陽エネルギーを活用する。	
		・退室及び退社時には、照明やエアコンの電源を確認する。	
		・工務での冷暖房使用時には、間仕切りカーテンを使用する。	
		・使用していない家電製品のコンセントを抜く。	
		・太陽電池及びセンサー点灯機能を利用した設備を使用する。	
		・取替時期を迎えた照明より、順次LED化を実施する。	
	化石燃料	・現場での休憩時には、車内で個別に休憩せずに皆で休憩所を利用する。	常德 満子 門田 翔吾 浜崎 博人
		・乗用車には余分な荷物を積まない。	
		・アイドリングストップを徹底する。	
		・現場へは乗り合わせて移動する。	現場代理人
		・作業内容に最も適した規格の機械を選定する。	
・低燃費型の建設機械を選定する。			
水資源投入量の削減		・水道は使用後に水が確実に止まっているか確認する。	常德 満子
		・粉塵の影響の少ない場所に現場内駐車位置を指定し、洗車頻度を減らす。	現場代理人
		・散水車での場合内散水の際には排水路の水を積極的に利用する。	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	・資料や書類の簡素化及び電子化をする。	常德 満子 門田 翔吾 浜崎 博人
		・保管期間が終了した書類のファイルやケースを再利用する。	
		・印刷用紙の裏面を再利用する。	
		・生ごみは水切りを行ってから処理する。	
		・食品等の消費期限を確認し、期限切れによる廃棄を減らす。	
		・印刷前に、印刷物に不備がないか確認する。	
	産業廃棄物	・事務用品購入前に、その必要性や必要量について検討する。	現場代理人
		・本社改築等により発生する場合は、細かく分別する。	浜崎 博人
		・木製型枠は傷めないように注意して取り扱い、転用回数を増やす。	現場代理人
		・丁張板や栈木等を切断したものは、再利用について検討してから処分する。	
・産業廃棄物の適正な処理及びリサイクル化を確認する。(マニフェスト)			
・Con,As殻に付着した土は入念に取り除き、排出量を減量する。			
グリーン購入の推進		・再生紙を使用する。	常德 満子 現場代理人
		・エコマーク商品や再生材料から作られた製品を購入、使用する。	
		・リサイクル建設資材の活用に努める。	現場代理人
社会貢献 環境美化活動		・事務所周辺のロードボランティア活動を積極的に実施する。	門田 翔吾
		・現場周辺の清掃等環境美化活動を積極的に実施する。	現場代理人
環境負荷の少ない 工事の推進		・環境負荷の少ない材料(リサイクル製品、県産品等)の使用。	現場代理人
		・低騒音、排出ガス対策型重機の使用。	
		・型枠、工事看板への県産材の使用。	
		・建設機械、工事用車両の省エネ運転の実施。	

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

法律等の名称	要求項目及び 当社の対応	遵守評価	
		評価日	適否 要○印
廃棄物処理法 (廃棄物の処理及び清掃に 関する法律)	＜産業廃棄物の委託基準＞【委託前】 ・委託基準の遵守（期限内の許可証添付） ・契約内容の確認	2023年 7月31日	○適否
	＜産業廃棄物管理票＞【廃棄物排出時】 ・現場代理人が記載 ・A票と併せてB2票、D票、E票を5年保存 ・90日以内にB2、D票、180日以内にE票の送付がない場合は、 業者へ照会し、状況を30日以内に行政へ報告	2023年 7月31日	○適否
	＜産業廃棄物管理票交付等状況報告＞【毎年4月上旬点検】 毎年4月1日～6月30日の間に提出	2023年 7月31日	○適否
	＜多量排出事業者＞【毎年4月上旬点検】 ・昨年度産業廃棄物排出量1000トン以上の場合、 計画書を提出し翌年度に報告書を提出 但し、工事が昨年度で終了した場合は不要	2023年 7月31日	○適否
資源有効利用促進法 (資源の有効な利用の促進に 関する法律)	＜建設副産物の利用促進＞【施工計画時】 ・原材料等の使用合理化、再生資源の利用促進 ・建設副産物の全部または一部の利用促進	2023年 7月31日	○適否
建設リサイクル法 (建設工事に係る資材の 再資源化等に関する法律)	＜建設工事の事前届出＞【施工計画時】 ・対象建設工事受注時に書面作成し、発注者に説明	2023年 7月31日	○適否
騒音規制法	＜特定建設作業の届出＞【作業開始1ヶ月前】 ・7日前までに市町村長へ届出し、規制遵守	2023年 7月31日	○適否
振動規制法	＜特定建設作業の届出＞【作業開始1ヶ月前】 ・7日前までに市町村長へ届出し、規制遵守	2023年 7月31日	○適否
高知市公害防止条例	＜特定建設作業の届出＞【作業開始1ヶ月前】 ・7日前までに高知市長へ届出し、規制遵守	2023年 7月31日	○適否
排出ガス対策型建設機械の 普及促進に関する規程	・対策型ステッカー貼付の建設機械使用【持込機械点検時】	2023年 7月31日	○適否
低騒音型・低振動型建設 機械の指定に関する規程	・対策型ステッカー貼付の建設機械使用【持込機械点検時】	2023年 7月31日	○適否
道路交通法	＜道路の使用の許可＞【使用開始1ヶ月前】 ・所轄警察署長に許可申請し、規制遵守	2023年 7月31日	○適否
道路法	＜道路の占用の許可＞【占用開始1ヶ月前】 ・道路管理者に許可申請し、規制遵守	2023年 7月31日	○適否
高知県環境基本条例	・環境への取り組みの施工計画への記載【施工計画時】	2023年 7月31日	○適否
南国市環境基本条例	・環境への取り組みの施工計画への記載【施工計画時】	2023年 7月31日	○適否
フロン排出抑制法	・簡易点検:全ての業務用冷凍空調機器【3ヶ月/1回】 ・定期点検:7.5kW以上の業務用エアコン等【1年/1回】	2023年 7月31日	○適否

○環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

2022年8月1日より2023年7月31日までの間、環境関連法規等の違反、訴訟及び外部からの苦情・要望等はありませんでした。

※最新改訂日より1年以内の更新事項については赤書き、点検頻度・測定時期については【】書き

11. 代表者による全体の評価と見直し・指示結果

■定期見直し(事業年度終了後)
□臨時見直し

実施日：2023年8月1日

見直しに必要な情報				代表者による見直し	
管理責任者の報告及び改善への提案				変更の必要性の有無・指示事項	
[取り組み状況の評価結果]				[環境経営方針]	
①環境関連法規制等の遵守状況 2023年7月31日に評価を実施した結果、遵守されている。 ②問題点の是正処置及び予防処置の状況 適切に処置されている。 ③前回までの代表者の指示事項への対応 適切に対応されている。 <改善への提案> 特に無し				変更の必要性： □有 ■無 ・2011年8月より「エコアクション21」の活動をスタート ・環境経営方針を全社員に周知徹底・認識させることにより環境についての意識向上を図り、環境にやさしい会社づくりを目指す。	
[環境経営目標・計画の達成状況]				[環境経営目標・計画]	
目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況	コメント	変更の必要性： ■有 □無	
電力の削減	×	○	事務所の小型化に努める	・前回審査の際の総合コメントにて、基準年が古くなってきているために見直しを検討してはどうかという提案があり、それを受け、2011年度を基準年とした環境経営目標から、新たに2020年度を基準年とした環境経営目標への見直しを実施した。また、電気事業者のCO₂排出係数について、以前は2016年度公表のものを使用していたが、新たに2022年度公表の値を使用することとした。 ・電力の削減目標は達成できなかったが、その代わりに化石燃料を使用した施工を減らすことができたため、その点については良い選択であったといえる。建設業におけるCO₂排出量の削減には、軽油使用量の削減が最重要であるため、今後もその点を重視した環境経営と活動を行っていく。	
化石燃料の削減	○	○	ICT施工により作業の効率化を行う		
CO ₂ 排出量の削減	○	○	特に軽油使用量の削減を意識する		
節水	○	○	使用者一人一人が節水を意識する		
一般廃棄物の削減	○	○	書類の簡素化及び電子化を推進する		
産業廃棄物の削減	○	○	特にがれき類の発生量抑制に努める		
グリーン購入	-	○	積極的に購入する		
社会貢献	○	○	全現場共、地域清掃等によく取り組んでいる		
環境負荷の少ない工事	○	○	全現場共、現場特性に合わせよく取り組んでいる		
<改善への提案> エネルギーコストを改善するべく、次年度以降もクリーンエネルギーの積極的な利用に努めていく。					
[周囲の変化の状況]				[実施体制]	
①外部コミュニケーション記録より 苦情 0件 行政との打合せ 1件 ②環境関連法規制等の動向他 当社に関連する法規制については大きな変化はなかった。 <改善への提案> 引き続き、環境意識を高く持ち続けられるように努力すること。				変更の必要性： □有 ■無 現在の環境経営システムは有効に機能している。 今後、継続的に見直し・改善を加えながら環境経営を推進すること。	
[総括]					
今年度は完成工事が少なく、それは完成工事高及び百万円あたりのCO₂排出量にはつきりと表れ、企業経営上残念な年度であった。来年度は現在手持ちの未成工事に加え、大型工事を数件受注できる見込みではあるため幾分改善される予定ではあるが、近年の工事の大型化や少子高齢化による働き手不足の問題により、数年後には情勢ががらりと変わっている可能性も大いにありうる。 そのような中でも生き残るべく当社が取り組むべきことは、発注者と働き手に選ばれ続ける魅力的な企業であり続けることである。前年度も触れた工事現場のDX化・遠隔化・働き方改革などを推し進めることも正に、魅力的な企業を構築する要素である。 そして、エコアクションやSDGsへの取組みを通じて、社会や環境の変化に適応・貢献し続けられる企業であるということを内外にアピールすることも大切な時代となってきていると感じる。 周りのため『だけ』でなく、自らのため『にも』、環境への真剣な取組みが必要である。					
				代表者サイン 常德和也	

保管：環境事務局